
2019年3月期
決算説明会
2019年5月20日
株式会社ユタカ技研

Ⅰ．2019年3月期 決算概況

Ⅱ．2020年3月期 見通し

Ⅲ．事業状況

2019年3月期

決算概況

19年３月期連結決算概況

（単位：億円）

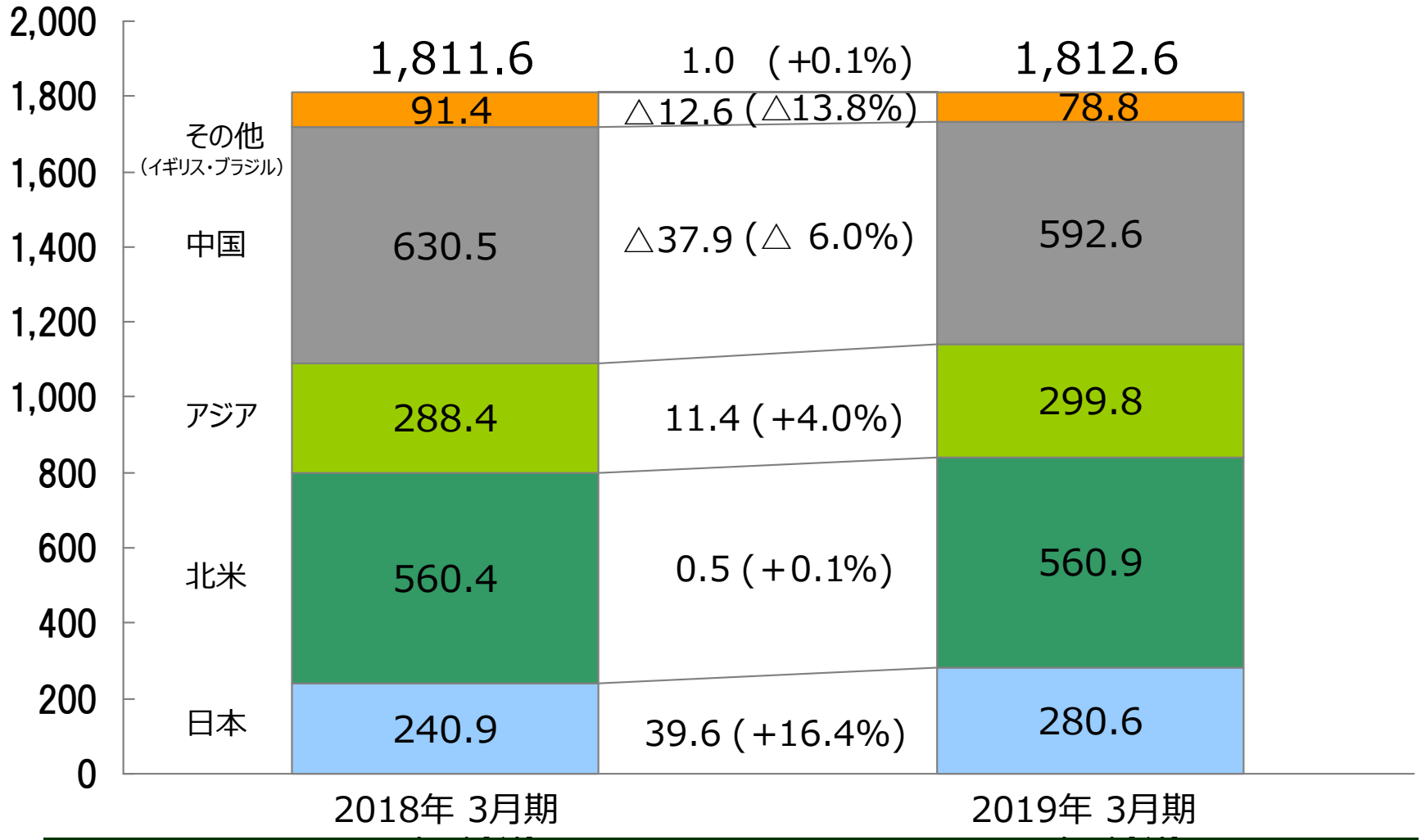
	2018年 3月期	2019年 3月期	増　減
売上収益	1,811.6	1,812.6	0.1%
営業利益	96.4	86.0	△10.8%
税引前利益	96.9	90.1	△7.0%
当期利益	49.5	54.5	10.3%
親会社の所有者に帰属する当期利益	30.1	46.6	55.1%
基本的１株当たり当期利益	202.85円	314.59円	111.74円
１株当たり配当金	62.00円 ＊中間 31円，期末 31円	72.00円 ＊中間 36円，期末 36円	10.00円
	($1=¥111)	($1=¥111)	

売上変動や経費負担増により減益となるも、税務リスク引当金取崩により増益

19年３月期連結決算概況 地域別売上収益

（単位：億円）

（セグメント間の内部売上収益及び振替高を除く）

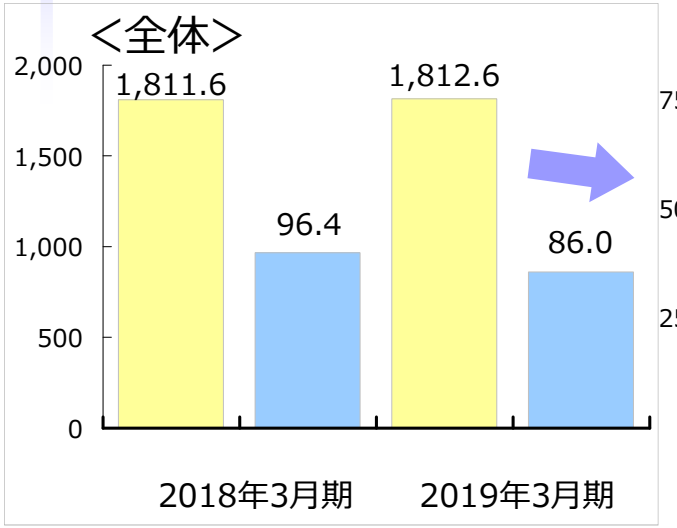


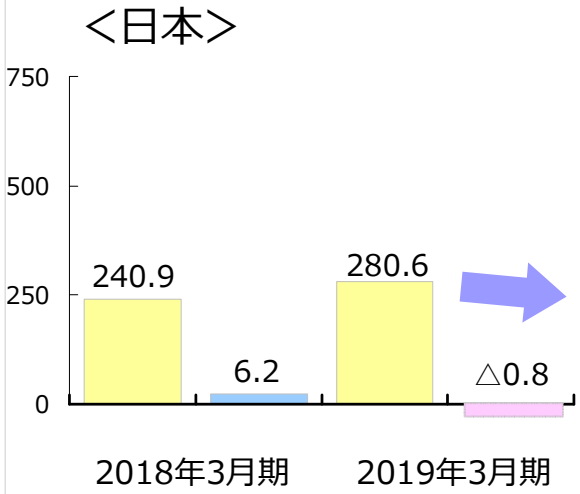
中国・その他で減収となったものの、日本・アジアで増収

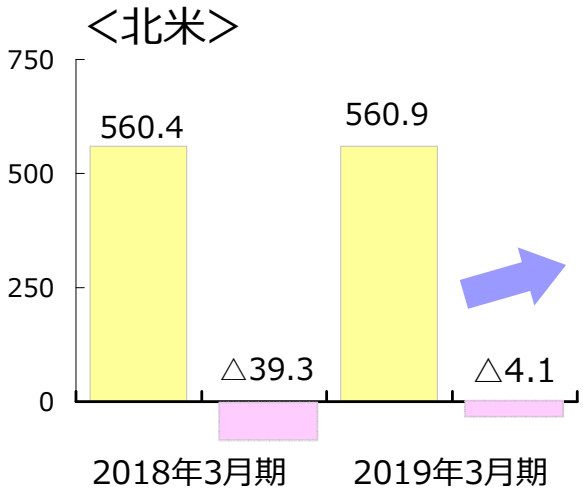
19年３月期連結決算概況 地域別営業利益

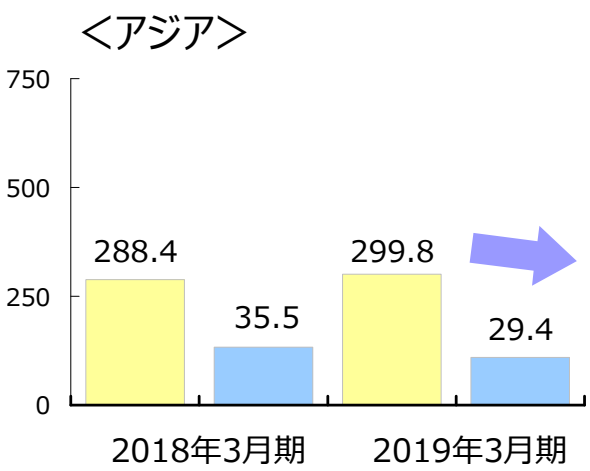
(単位：億円)

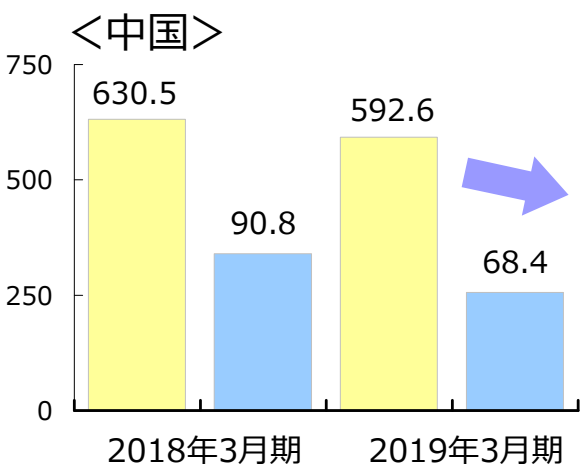
売上収益　利益増減
営業利益　営業損失

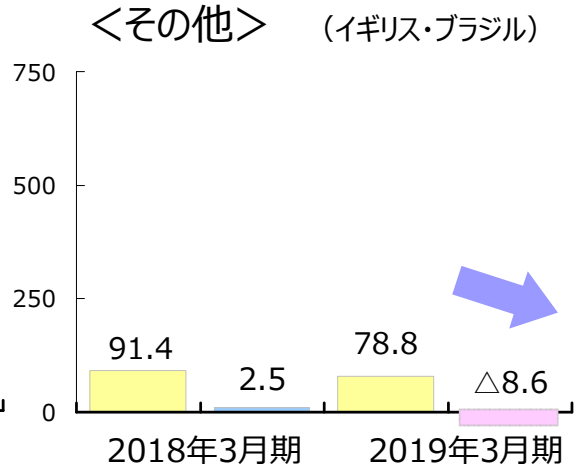








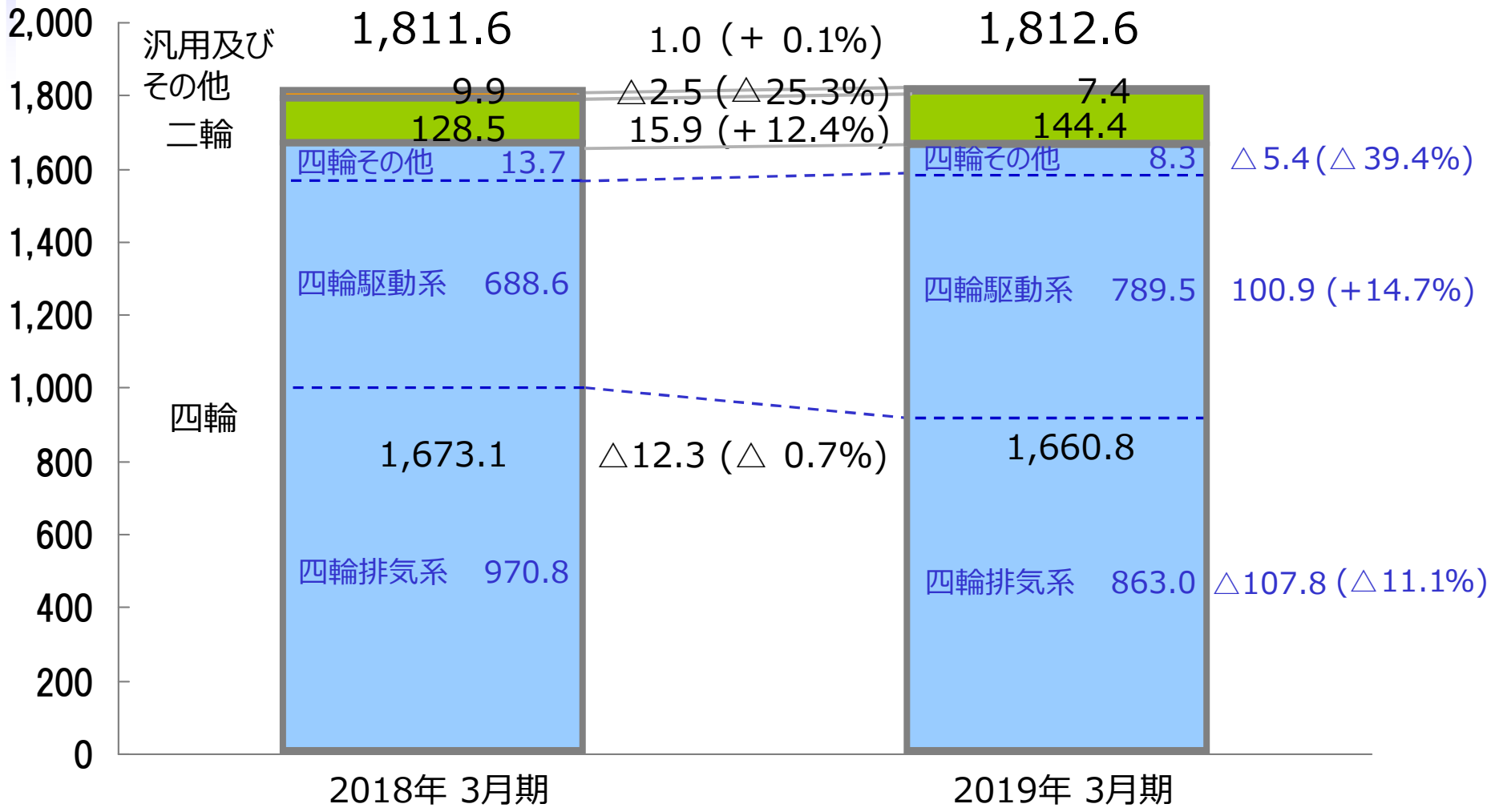




北米で減損損失の影響がなくなり損失額減、中国減益影響が大きく、全体で減益

19年３月期連結決算概況 製品別売上収益

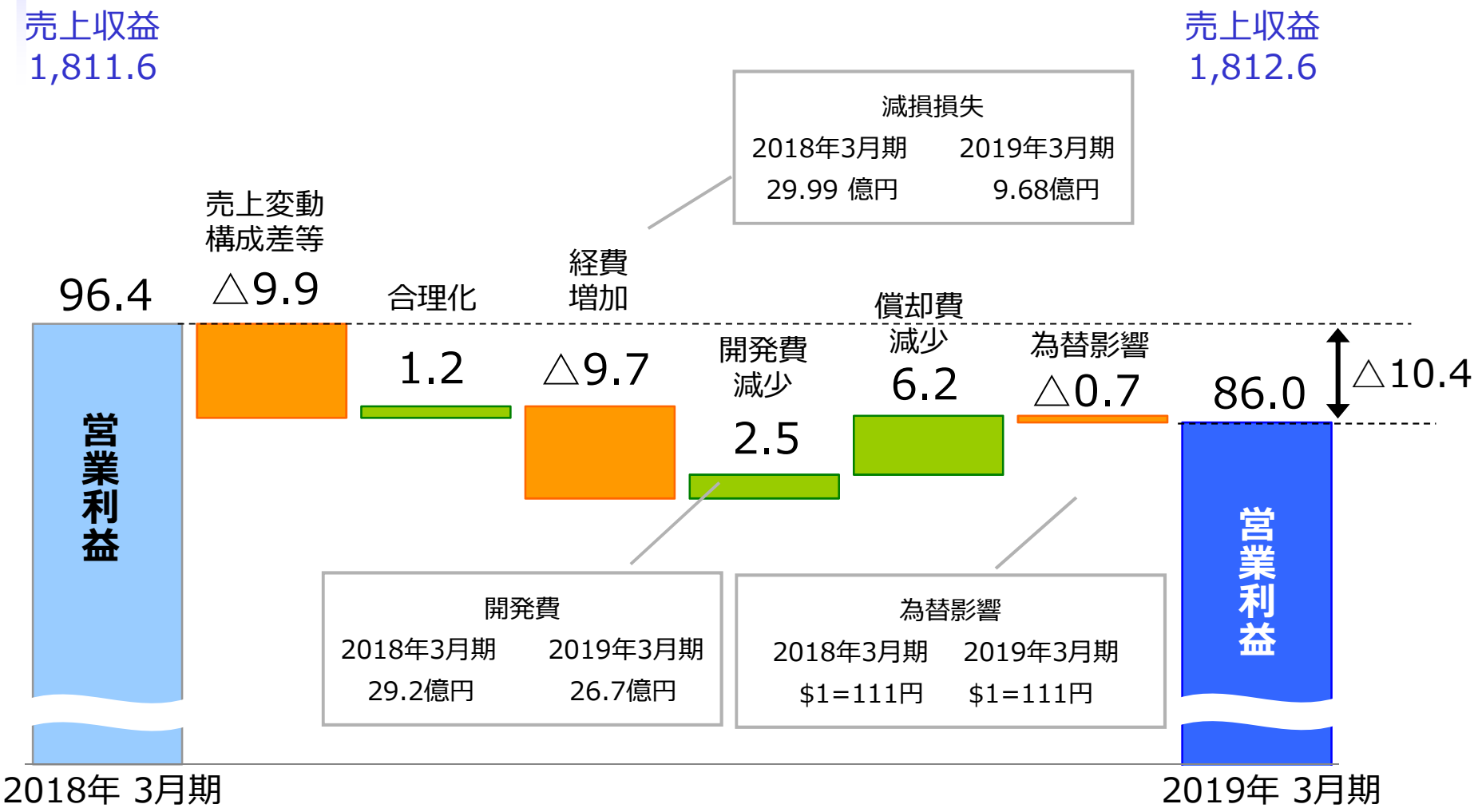
（単位：億円）



主に二輪事業で増収

19年３月期連結決算概況 営業利益 増減要因

(単位：億円)



売上変動や経費負担増により減益

英国連結子会社の固定資産減損損失計上

発生事象の内容

当社の英国連結子会社（ユーワイエス・リミテッド）が保有する固定資産について、将来的に収益性が低下する可能性が発生したことにより減損の兆候が認められると判断し、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し当該減少額を減損損失として計上いたしました。

連結損益に与えた影響額

2019年３月期の連結決算において、減損損失として9億6千8百万円を売上原価として計上いたしました。

補足

連結決算上の処理であり、英国連結子会社の実際の生産計画を反映したものではありません。

2020年3月期
見通し

20年３月期連結見通し

（単位：億円）

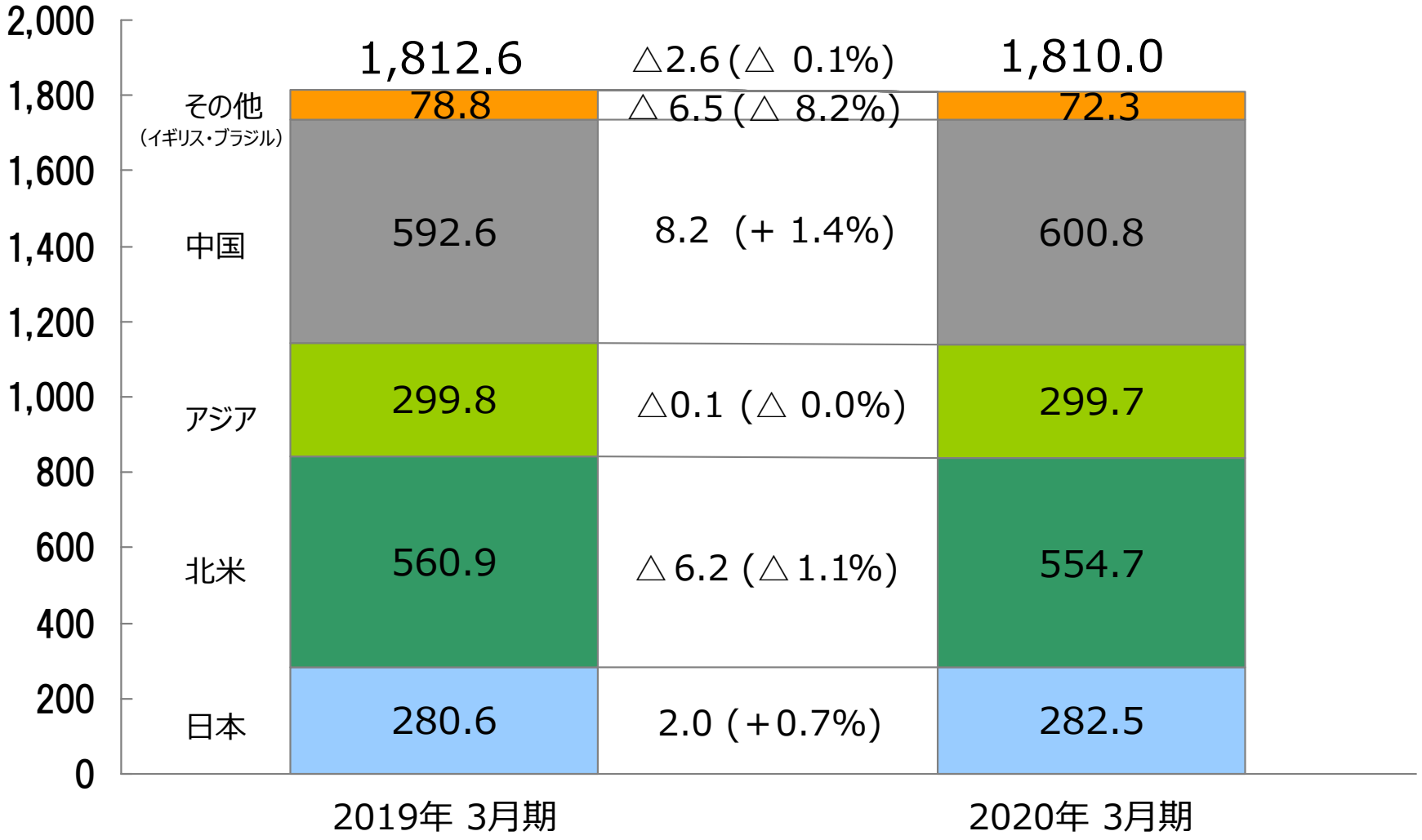
	2019年 3月期	2020年 3月期	増　減
売　上　収　益	1,812.6	1,810.0	△0.1%
営　業　利　益	86.0	75.0	△12.8%
税 引 前 利 益	90.1	74.0	△17.9%
当　期　利　益	54.5	41.0	△24.8%
親会社の所有者に帰属する当期利益	46.6	30.0	△35.6%
基本的１株当たり当　期　利　益	314.59円	202.45円	△112.14円
１株当たり配当金	72.00円 ＊中間 36円，期末 36円	72.00円 ＊中間 36円，期末 36円	―円
	($1=¥111)	($1=¥110)	

売上変動、償却費増により減益となる見通し

20年３月期連結見通し 地域別売上収益

（単位：億円）

（セグメント間の内部売上収益及び振替高を除く）

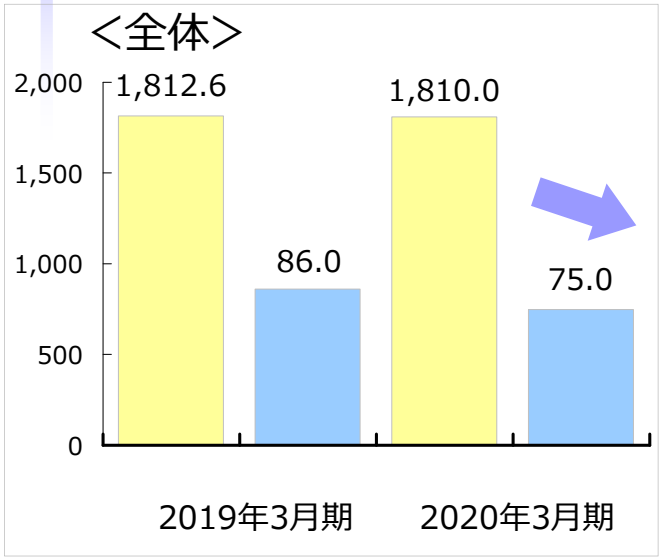


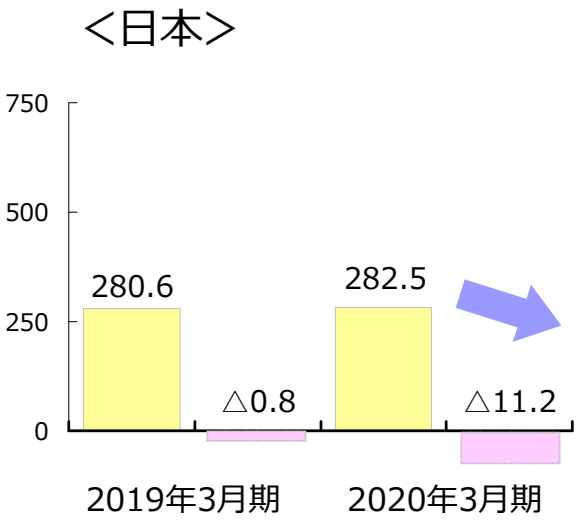
中国は構成部品の価格変動に伴う影響により増収、北米・その他で減収の見通し

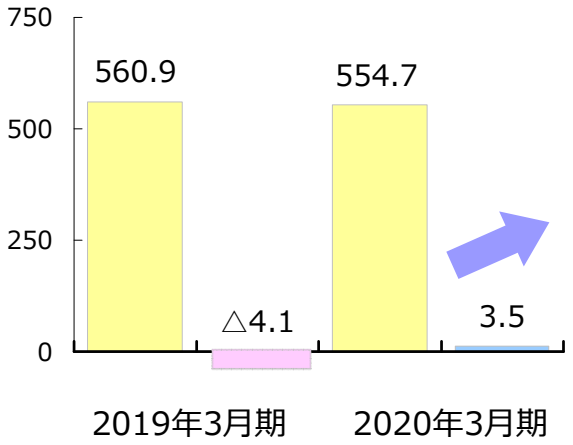
20年３月期連結見通し 地域別営業利益

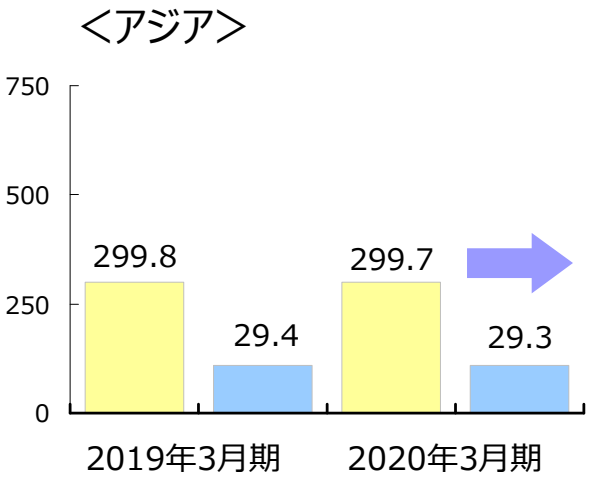
(単位：億円)

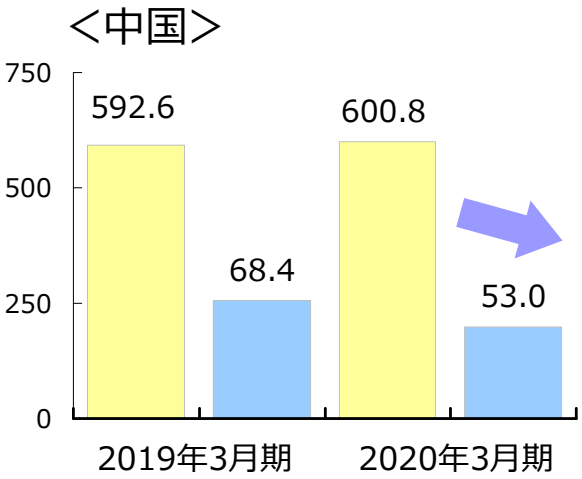
売上収益　利益増減
営業利益　営業損失

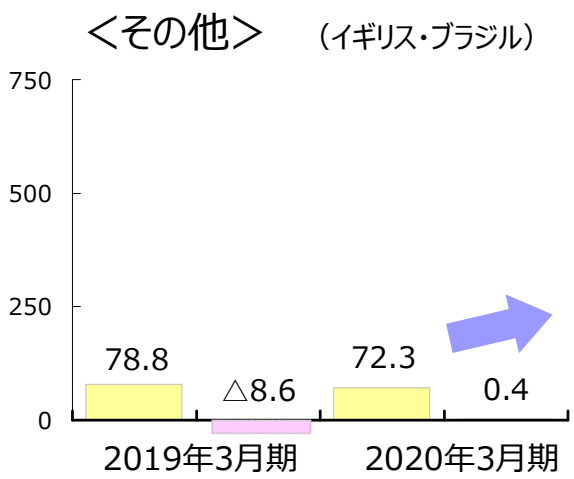








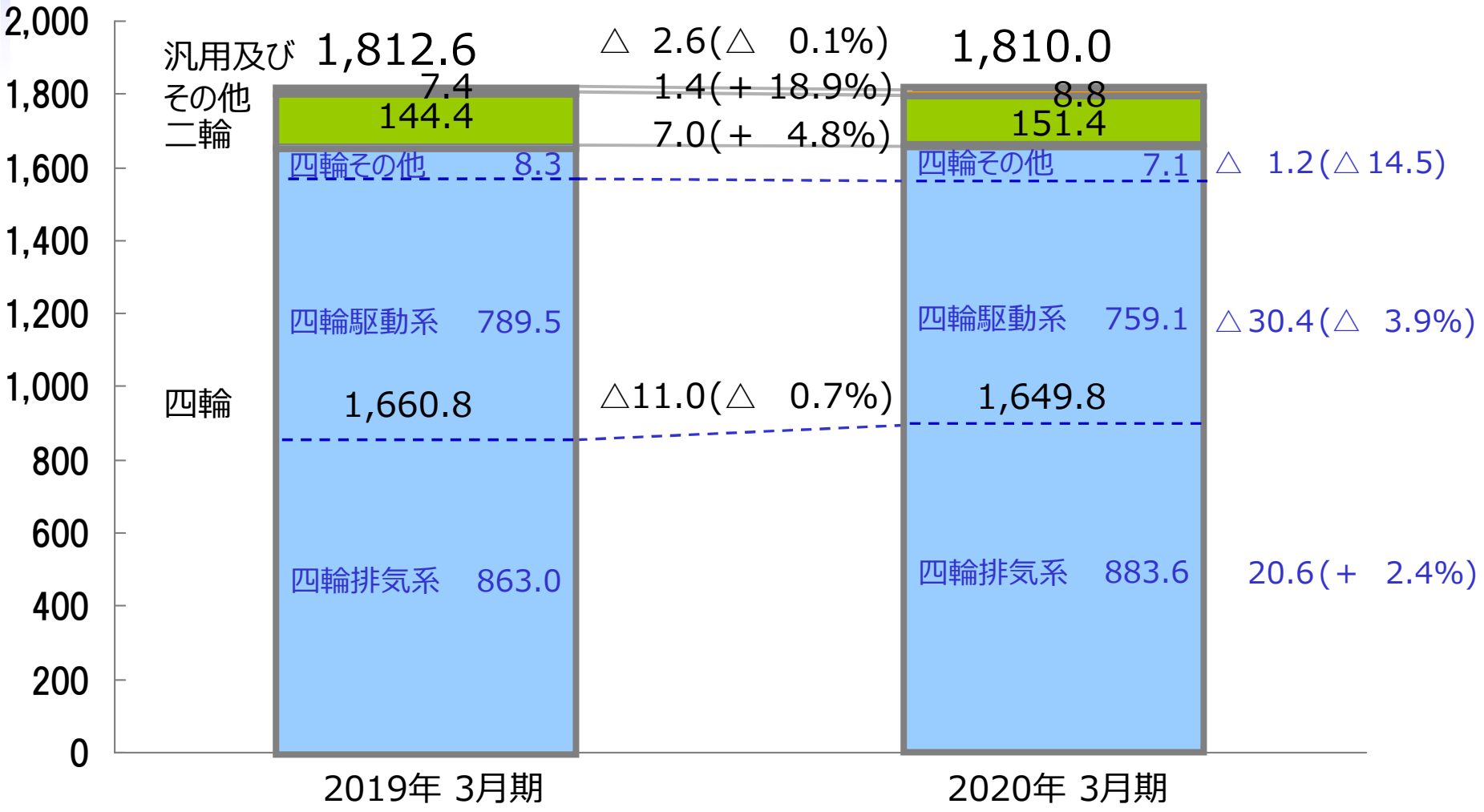




北米・その他は増益となるものの、日本・中国で減益

20年３月期連結見通し 製品別売上収益

（単位：億円）



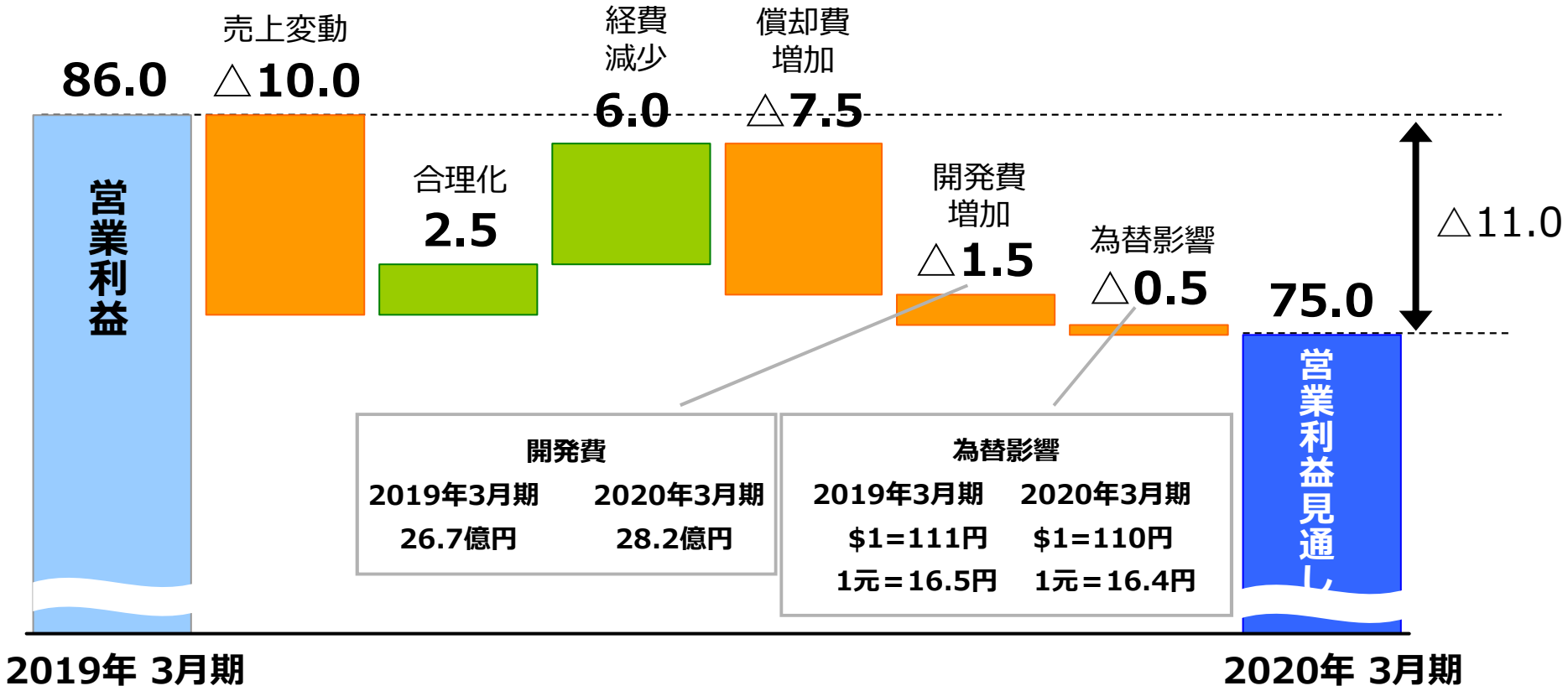
四輪で減収となるが、二輪、汎用及びその他で増収となり全体で前期同水準見通し

20年３月期連結見通し 営業利益 増減要因

(単位：億円)

売上収益
1,812.6

売上収益
1,810.0



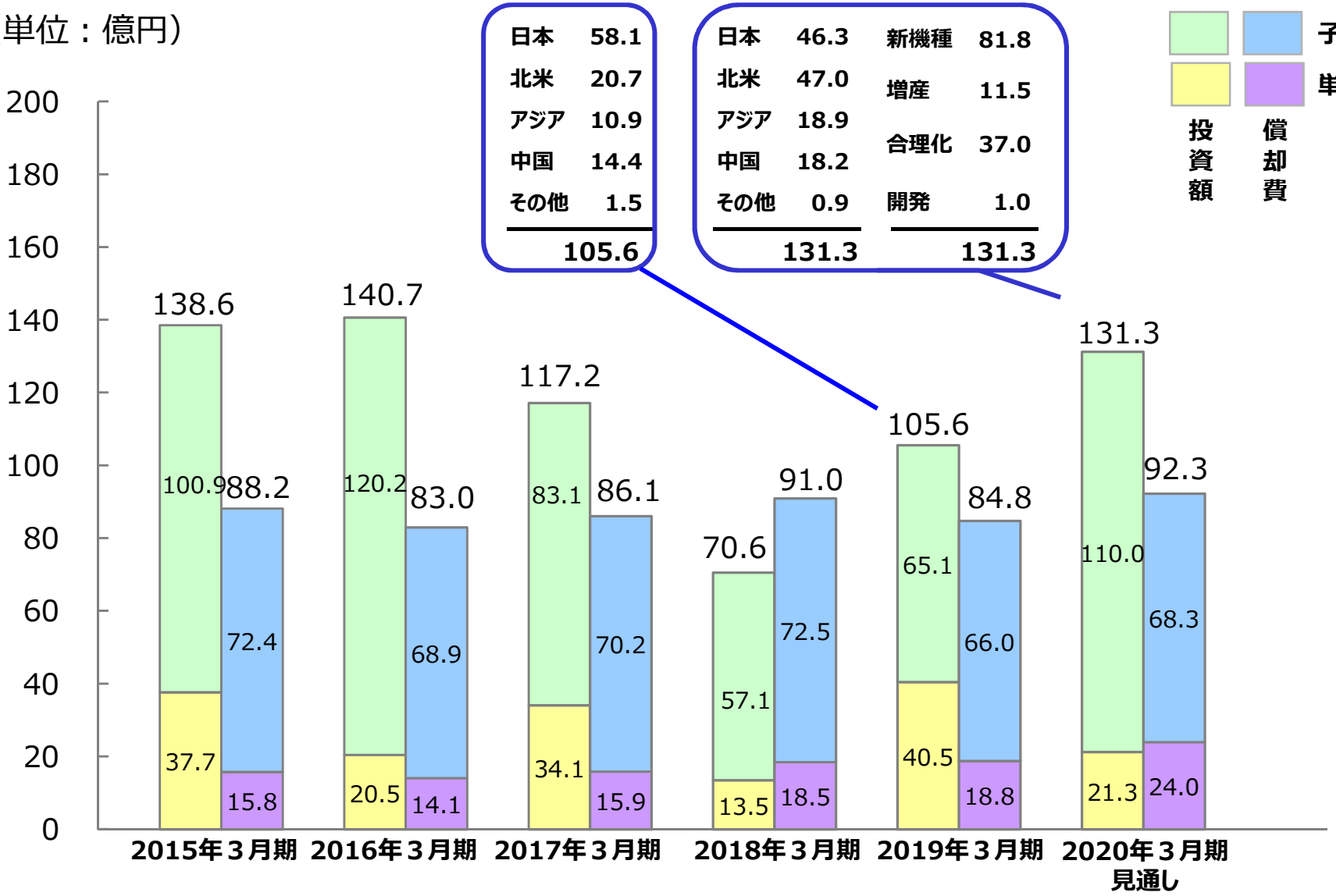
減損損失の影響がなくなるものの、売上変動及び償却費増があり、減益見通し

20年３月期連結見通し 設備投資額の推移

(単位：億円)

日本	58.1
北米	20.7
アジア	10.9
中国	14.4
その他	1.5
	105.6

日本	46.3	新機種	81.8
北米	47.0	増産	11.5
アジア	18.9	合理化	37.0
中国	18.2		
その他	0.9	開発	1.0
	131.3		131.3

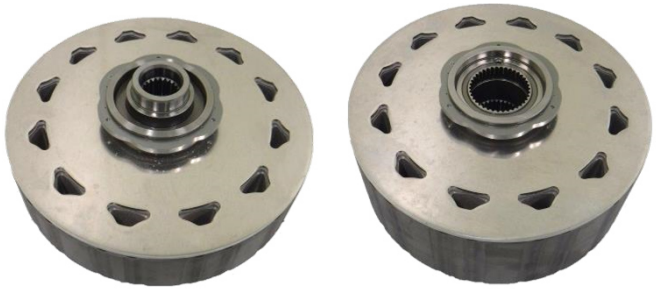


新機種投資や合理化投資増加見通し

事業状況

Yutakaモーター製品搭載の拡大

SPORT HYBRID i-MMD用ローター(Assembly)



発電モーター用ローター　　駆動モーター用ローター

- 力強い加速と滑らかな走りを実現した「SPORT HYBRID」用モーターのコア部品
- 高い生産性を生み出す全自動化された クリーンなラインで組み立て

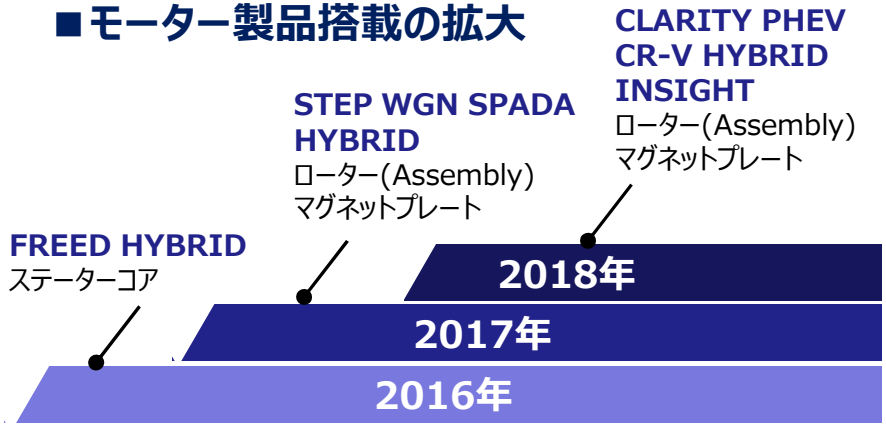
マグネットプレート



マグネットプレートA　　マグネットプレートB

- ローターの両側に付き、プレート表面の油路溝を活かし冷却性能を向上
- 高い加工精度と生産性を高次元で両立した省人化ラインで生産

■モーター製品搭載の拡大





採用車種：Honda CLARITY PHEV
（2018年7月発売）



採用車種：Honda INSIGHT
（2018年12月発売）



採用車種：Honda CR-V HYBRID
（2018年11月発売）

Yutakaのサステナビリティ取り組み

Yutakaは、適切な情報開示と社会との対話を基本とし「持続可能な社会の実現」に取り組んでいます。



社会からのサステナビリティ取り組みに対する期待の高まりに伴い、多様なステークホルダーの期待や要請を製品や取り組みに反映し、その実績を社会へ開示、対話することを積極的に進めてまいります。

取り組み方針と項目

社会への開示

Yutakaのめざす姿
「社会から信頼され、存在を期待される企業になる」



社会との対話

E 環境

- 環境の長期戦略、重要課題
- 環境方針、マネジメントシステム
- 環境データ
- ライフサイクルでの取り組み
- 気候変動戦略
- 低炭素への取り組み

S 社会

- 企業の長期戦略、重要課題
- 品質、安全
- 社会領域の報告
- 労働慣行と人権　・社会貢献
- 人材開発　・優秀な人材活用
- 従業員の健康と安全衛生

G ガバナンス

- 行動規範
- コーポレートガバナンス
- コンプライアンス、腐敗防止
- リスクマネジメント
- ブランドマネジメント
- サプライチェーンマネジメント

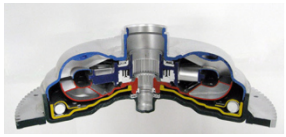
Yutakaのサステナビリティ取り組み

取り組み内容について

E：環境、S：社会、G：ガバナンスの各取り組みを推し進めることで、より統合的な視点で展開しております。

E：環境

【製品づくり】



トルクコンバータ



ヒートコレクター

環境負荷の低減を実現

【工場の取り組み】



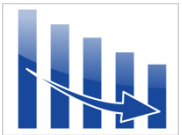
太陽光発電



工場排水の浄化

資源・エネルギーの有効活用、リサイクル化を推進し、CO2削減と廃棄物の低減を実現

【環境データの開示】



エネルギー使用量や廃棄物排出量の推移及び、法規制の順守状況管理

S：社会

【地域交流】



会社周辺清掃



夏祭り

【地域貢献】



自転車寄付



パソコン寄付



献血実施

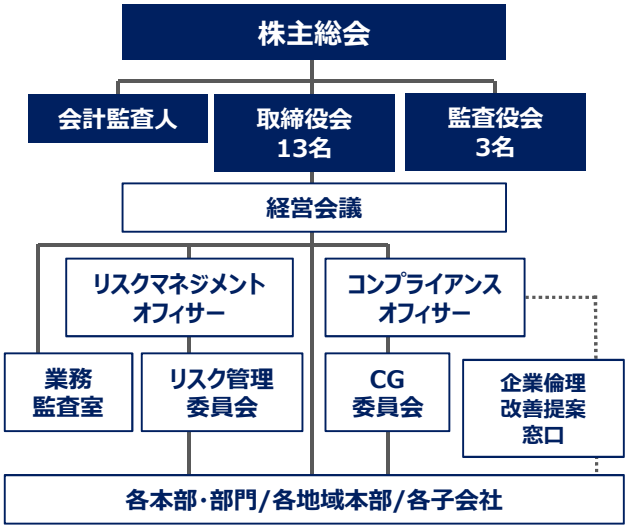


クリスマスギフト寄付

企業市民として地域に根ざした企業を目指しグローバルでの活動を積極的に展開

G：ガバナンス

【コーポレートガバナンス】



【リスクへの対応】



地震防災訓練

【コンプライアンス】



CG委員会

リスクへの対応や人材育成と多岐にわたり、コーポレートガバナンスの充実に向け推進


YUTAKA
Clean for the Future